

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報
第8号(20100108)
発行 竹田幸男



同好会ニュース

1月例会の開催

本年初の1月例会は年初早々の1月8日(金)にいつもの市民活動センター子供部屋で開催、今回の重要議題は3月の発表会を予定通り開けるか、ということでしたが、時間いっぱいまで作品の映写と検討を行い、作品数から見て時間的に余裕があるものの、作品の質としては発表会の開催が可能であろうとの見通しを立てることができました。

例会の窓

平成22年1月例会

日時 平成22年1月8日(金)
13:30~17:00
場所 寝屋川市民活動センター
(市民会館4F)子供部屋

出席者 天野 新井 石田 小笠原 梶本 竹田 竹下 谷 田淵（9名）

欠席者 竹嶋（50音別 敬称略）

例会次第（今回の要約 小笠原氏）

1. 議事内容

（1）竹田会長より

会報6号に誤植があり、全員に訂正し再送した。

（2）パナソニック松愛会ホームページの問題点

全国の同好会から寝屋川映像同好会につながらない。松愛会へ修正を依頼する。（田淵氏より取り次いでもらう）

（3）作品発表会の件

・竹嶋さんの出品作「定年を迎えた岩夫さんへのビデオレター」 5分
田淵さんが竹嶋さんからの伝言を報告いただいた。

・ナレーションは山澤さんに依頼する。過半数が依頼するのであれば録音会も考えたが、要望が3人だったので、個別に原稿を送って録音してもらうこととする。

・後記の作品映写結果から作品の延べ時間は1時間半未満であるが、話などを挿入して2時間にする。

・2月の例会でプログラムを作成し、3月の松愛会メールに間に合わせるように考える。

（4）撮影会の件

4月2日（金）～3日（土） 岡山・大原 ひなまつり

交通手段	往路	寝屋川市駅	9時32分発	大原着	12時34分
	復路	大原発	15時18分	寝屋川市駅着	18時19分
		または	16時09分		19時19分

・料金は 3,310円＜往路・復路とも＞、復路時刻は2月例会で検討・決定。
昼食＜初日＞は大原到着後に現地とする。人数が多いので事前に場所選定。
映像協会も参加する。1月24日に例会があるので、それまでに詳細を資料にして渡し、参加者を募る。

・天野さん：交通手段、経路、料金等のまとめ担当。切符手配。

・田淵さん：詳細スケジュール作成、昼食場所選定・予約、宿泊場所。

（5）「映像北大阪」と「寝屋川映像協会」との交流会について

私たち「映像同好会」も参加させて頂き、2～3作品は発表する。

・2月28日（日）、場所は寝屋川市立総合センター視聴覚室にて

2. 映像作品の映写・合評

映像作品発表会出品候補作品の試写

石田さん 「若狭路への旅」 10分

- ・BGMのレベルを下げた方がよい。話し声が大きい部分は現地音も下げる。
- ・三方五湖の見えるシーン(3シーン?)をまとめる。最初のシーンは揺れているのでカットするのがよい。
- ・タイトルの夕日を朝日らしく加工してはどうか。
- ・すべてのトランジションがオーバーラップなので、動きのある場面では両方の動きが加わって目が回る。通常はカットつなぎとして、シーンが大きく変わる時(時間的・場所的に)のみに使うのが効果的。

竹下さん 「イエローストーン(20年前との比較)」 10分

- ・20年前との差が良くわかる。
- ・ご自分の声で入って居たがナレーションは他の人に依頼するとのこと。
- ・エンドはフェードをかけるなどの工夫をされては。

天野さん 「北野天満宮」 6分35秒

- ・雪のシーンがすばらしい。
- ・ナレーションは女性がいいのでは。ご自身の場合音質を工夫されては。
- ・テロップはできるだけナレーションに置き換えるほうがよい。色使いが派手なので落ち着いた色の工夫と色の統一をされては。

「京都東山・花灯路」 4分47秒

- ・夢幻的な被写体が生きている。
- ・ナレーションが最初だけしかない。テキストの部分をナレーションにした方がよい。ナレーションがあっても物の名前などはテロップを残す。
- ・テキストの字の色が派手。薄い色になど工夫しては。
- ・エンドに「感想」締めくくる言葉をナレーションに入れては。

「東映・太秦映画村」 8分04秒

- ・前回に比べてすっきりと簡潔にまとまった。

谷さん 「オーストリア アッヘン湖の旅」 6分23秒

- ・ナレーションも多くなり、ラストもまとまった。生き生きした色合いが出ている。
- ・ナレーションのところは、BGMの音量をもう少し下げた方が聞きやすい。
- ・タイトルと「終」の字を少し大きくした方がよい。

新井さん 「三室戸寺 ハスの酒」 8分29秒

- ・前回に比べてだいぶ整理されて流れが良くなった。飲む人の表情が良く出ている。
- ・タレントのシーンが多いので、少しカットしては。

「三室戸寺・アジサイその1」 発表するかどうか考える。

- ・シーンが少し忙しい。速度を落として映像が不自然でなければいいが。

「三室戸寺 アジサイその2」 発表するかどうか考える。

- ・ズームが目立つ。

竹田さん 「忠烈祠・衛兵の交代」 5分

- ・ハイビジョン撮影作品。
- ・画質が悪いのはDVに変換したため。ハイビジョンで映写できる環境ができるならば出品する。

「ひ孫たちへの願い」 7分

- ・ストーリー・映像が確りしている。構想が良く練られている。
- ・主人公に対する作者の思いやりの心が感じられる。

小笠原さん 「私の無常観と白昼夢」 10分25秒

- ・今までにない主観的な面白い作品だ。
- ・ストーリーのつながりを、どのようにまとめるかが課題。10分以内に収めるように。
- ・若い人のランニングの部分は主題に沿わないのでカットする。
- ・白昼夢の部分は被写体（高齢者）の活動を作者の意図に合うよう違う意味で利用しているのでボカシを入れたほうがよい。また画面加工で夢らしく見せる工夫を加えては。
- ・徒然草のクレジットのバック・本のページを繰るようにしては。
- ・作者本人は自信がなく発表を辞退するも、発表する方向で進める。

3 . その他

(1) 次回例会日

2月5日(金) 13:30 ~ 寝屋川市民会館 4階

- ・映写ビデオ担当：天野さん
- ・議事記録：竹嶋さん<欠席のため予定>



私のつばやき ビデオ作品作り

小笠原 邦雄

岡山県南西端の瀬戸内海の小島（今は干拓により本州の一部）、神島（こうのしま）に生まれ小学校3年1学期まで暮らした。映画・写真などについての思い出を辿ってみる。

映画を初めて見たのは小学校の時である。島から渡し船に乗って本州に渡り、とはいっても300メートル位の渡しである。遠足を兼ねての映画鑑賞であった。内容は全く覚えていないが、不思議に題名の「蜂の巣の子供たち」だけは覚えていた。今回、この文章を書くに当たってインターネットで探したところ、簡単に見つけることができた。1948年作で、主人公が引き揚げてきて、出会った、すさんだ浮浪者の子供たち、同じく引揚者の女性が、たくましく生きていくという内容とのことである。その後、旅館の大広間で上映された「ターザン」が思い出に残っている。

親父がDP屋の仕事をしたので、珍しいものに目がない小生は、ミゼットという小さいカメラから始め、ミノルタのレンズはロココール、シャッターはセイコウシャラビットのカメラを長い間使った。小学校5年生の小旅行、修学旅行などの集合写真は小生が撮った。カメラ屋の息子が小生の通称であった。今でも、その頃の友人はそう呼ぶ。丁度その頃、親父が「ロケに来る。日本一の美女が来る。」と言った。小生には何のことやらさっぱり判らなかつた。井笠鉄道が使っている軽便鉄道が時代に合っているとのことでロケに来たようである。

小生に覆いかぶさって写真を撮っていた人がいた。新聞にほとんど同じアングルの写真が載った。美女とは山本富士子のことで、映画名は山本富士子のデビュー作「花の講道館」であった。その後、シネマスコープという大画面の映画が小さな町でも上映されるようになった。西部劇、戦争もの、歴史ものなど、新しもの好きの小生を大いに楽しませてくれた。就職して間もない頃、守口の土居小学校のグラウンドで上映された映画を見に行った記憶もある。

1967年頃、故郷の瀬戸内海の風景をスライドにしたいと考え、シナリオを作成してアナウンサーに吹き込んでもらった。甘い素晴らしい声であった。元映画のシナリオライターで社内の視聴覚教材を担当していた人の紹介であった。元シナリオライターが小生のシナリオに朱を入れた。アナウンサーは朱を入れる前と入れたものとを比較して、修正前の方が素晴らしいと内緒でささやいてくれた。仕事が忙しくシナリオに沿った写真は取らず仕舞い。いくら探してもテープは見つからず残念。

映像にナレーションはつきものだ。何とか、ナレーションをものにできない

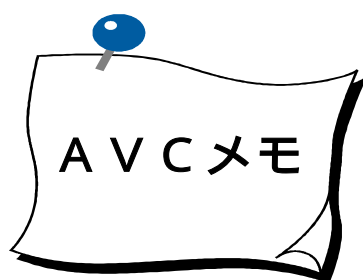
かと考え、有志が集まって勉強会を始めた。あいうえおあお、かきくけこかこ、と、発声練習。苦手な鼻濁音の習得。小生は、ラジオ放送のアナウンサーの声を記録し、「グエンカオキ大統領は・・・」などと練習した。しかし、いつの間にか立ち消え、全くものにならなかった。

ノンリニアという言葉を目にしたのもその頃だったと思う。ビデオ撮影・編集に興味はあったがリニアでは編集が難しすぎる。ノンリニアの時代よ！早く来い！と思ったものだ。今はハイビジョン時代の到来である。幸せいっぱいの小生である。しかし、映像同好会の偉い皆さんの前では、小生は、目に入らない小さな存在である。頑張ろう！

今から、30年前には、VHSとベータの規格競争をしていた。小生は、カバン位の大きさのメカと一昔前のビデオ本体ぐらいのカメラを使い、何人もの人に撮影テープを渡した。見るためにはVHSを買わなければならない。会社に何がしかの貢献をしたいと考えた。20年位前から、会社内、同窓会など、機会があれば、ビデオ撮影を買って出た。喜ぶ人の顔が嬉しかった。そこで学んだことは、シーンを長くしない、最初は止めて、ゆっくりパンし、最後は止める。ズームは出来るだけ使わず、画面切り替えで対応。編集しないので花、小川、山、時計、看板といったものを適度に入れる。同好会の皆さんには当たり前のことですよ。小生にとっては、大いに役立っていると思っている。

幼少の頃からの経験からか、事業場新聞を担当した時、ファインダーを覗いての撮影では、写真の出来・不具合が直感的に判断できていた。しかし、液晶画面での撮影には戸惑いがあり、動画の仕上がりの良し悪しまでは、残念ながら判断できない。幸いなのは、撮影後すぐに確認できることである。もっともっと腕を磨かなければならない。

ビデオ作品作りは新聞の編集と同じで、無から有を生み出すことである。したがって、作者の人生観、思想・信条、洞察力、企画力、さらには撮影・編集の技術力が問われることになる、と考えている。ビデオ作品作りを極めることは至難の業である。どこまでできるか判らないが、大いに研鑽をつみたいものである。



AVCHDについて

竹田幸男

AVCHD規格は、2006年5月に松下電器産業（現：パナソニック）とソニーが基本仕様を策定したハイビジョン動画記録フォーマットです。8センチDVDの記録容量でも十分な高画質の動画が撮影できるよう、映像には高効率符号化が可能なH.264/MPEG-4 AVC方式を採用、音声にはドルビーデジタル（AC-3）方式を採用、多重化に

MPEG2-TSを採用した、というものです。またハイビジョン以外に従来の標準方式である480/60iもサポートしているということですが、現在その製品はありません。

AVCHDでは従来のHDV規格などのように1つの記録メディア向けの規格ではなく、ファイルシステムを介して、複数の記録メディアをサポートできるように設計されています。当初8センチDVDに記録する製品もありましたが、今はハードディスクとメモリカードが中心になっています。システムビットレートは最大で24Mbps(メガビット/秒)。

2009年1月には720p(1280×720)で撮影するビデオカメラやデジタルカメラ限定の「AVCHD Lite」規格を追加しています。AVCHD規格の一部なのでAVCHD対応プレイヤーなどで再生できるということです。また規格としては1,920×1,080ドットのフルハイビジョンでは規格は1秒間約30フレーム、60フィールドの60iという形式ですが、最近パナソニックが発表した新製品TM-700では1秒間60フレームの60pという製品を独自規格として発表しています。もちろん1秒30フレーム/60フィールドの絵(一般のテレビ放送)よりも1秒60フレームの絵の方がずっときれいなものであると思われるのですが、再生側(この場合モニタまたはテレビ)がそれに対応している必要があります。

前回書いたHDVは圧縮方式はMPEG2(エムペグツー)でしたが、この規格はさらに圧縮率を高めたMPEG4(エムペグフォー)なので、圧縮と復号に必要な計算量がさらに増えるため、編集に使うパソコンは高性能なものであっても元のデータをそのまま編集するのは困難です。そのため、いろいろな工夫がされていますが、カノープスのEDIUSはCanopus HQに変換して編集し、コーレルのVideoStudioは中間のSD画質であるプロキシファイル(代理ファイル)を生成して、それを編集して、この編集結果を元に元のデータをレンダリングしながら最終のファイル形式に直す、という複雑な方法をとって、パソコンに対する負荷を軽減させ編集をしやすくしています。

しかしこれらの方法はデータ量が増えたり、編集画面が荒っぽい、何度も変換しなければならない、などの難点があります。

最近発表された、カノープスのEDELIOUS Neo2ブースターでは、CPUのコアが2つないし4個あるパソコンに対応して複数のコアにデータを分散して処理をさせることによって従来よりパソコンの敷居を低くすることを提案しています。これは従来よりは改善されていますが、一般に手に入る最高級のパソコンでも、まだ自由自在に編集処理をするのは苦しいようで、金に糸目をつけなくても、もう1~2年、コスト的に楽に手に入れられるようになるには2~3年待たなければならないでしょう。 ■